

やさしい病害虫講座 20**「冬季の病害虫防除の効果のほどは？」**

木村 裕

冬場は庭木の防除によい時期ですと、植木屋さんから勧誘を受けたことはありませんか？ 病害虫が眠っている冬の時期に防除をしておけば、春からの病害虫の発生が防げますとか言っていないでしたか？

冬場の病害虫防除は、春からの病害虫の発生予防にたしかに効果はあります。庭木の場合、しないよりした方がよいかと思いますが、費用と効果を比較検討するとはたして必要でしょうか。お金の使い道に困っている方はぜひ実行してください。お勧めします。

まず何の害虫、何の病気の発生を予防したいのかを考えてください。薬剤を散布すれば全ての病気や害虫が予防できるようなイメージを受けますが、そんなうまい話はありません。やさしい昆虫講座で取り上げたように、昆虫はそれぞれ知恵を絞って冬越ししていますので、簡単には防除はできません。病気や害虫、それぞれに適した時期や方法があり、やみくもに薬をまいても効果はありません。

具体的に事例を挙げると、冬場の防除薬剤は石灰硫黄合剤か機械油乳剤のどちらかです。



モモの縮葉病

石灰硫黄合剤はモモ、ナシ、ブドウなど果樹の病気の予防として散布します。それゆえ果樹栽培農家の人たちが春先に葉に発生する病気の予防のために散布します。では家庭の植木で春先に発生する病気はありますか？ ほとんどないと思います。この薬剤は散布後も硫黄の匂いが残るので、

植木屋さんとしては散布したよい証拠にはなりませんが、まず必要はないでしょう。

機械油乳剤は冬季防除によく用いられ、ハダニ（通称アカダニ）に効果が高いです。ハダニはいろいろな果樹で夏季に大発生して葉から貴重な栄養分を横取りするので、農家にとっては防除の難しい、につつき害虫です。それゆえ果樹農家にとっては冬季の防除は必須作業です。

この薬剤は名前の通り成分は油ですが、テンブラ油や機械に使う油ではありません。植物専用の油で、虫の体や卵を包みこんでしまうことで防除につながります。

カイガラムシにも効果があると言われていますが、小さな幼虫では効果が期待できますが、十分に成長した虫に対しては効果が劣ります。とくに皆さんの庭で発生している白色やチョコレート色のロウの塊のような虫にはまったく効果はありません。手で取ってください。



ロウムシ類

一般家庭の庭で機械油乳剤を散布して効果が上がるのは、ハダニがよく発生するマツ、スギ、イブキ、マメツゲでその他の樹種では何も期待できません。しかし、サルスベリのカイガラムシに対しては表面の荒皮を削りおとしてから散布すると効果が高いです。



サルスベリフクロカイガラムシ